

B-1-1 オーラルケアが行いやすい気管内挿管チューブの検討

新日鐵八幡記念病院 集中治療室
柴田真理子

(はじめに)

人工呼吸器関連肺炎(VAP)のリスクファクターの1つに口腔内細菌の増加がある。これを予防するためにはオーラルケアが重要であるが、経気管内挿管中のオーラルケアは行い難く、挿管チューブの変形を防ぐために使用しているバイトブロックによる口腔内や口唇の損傷の可能性もある。そこで、今回オーラルケアが行いやすく、かつ口腔内の損傷も軽減できるように、バイトブロック付きの挿管チューブを業者の方に作成して頂きたく今回その問題点と改善すべき点を提示する。

(目的)

看護師の理想とするオーラルケアが行いやすい挿管チューブとバイトブロックの検討。

(方法)

ICU 看護師にアンケートをとり、解析、整理して問題点を探る。

(結果)

現在使用中の挿管チューブとバイトブロックの問題点は、
バイトブロック

- ① 硬くて大きいため口腔内、口唇に潰瘍を作りやすい。
- ② オーラルケア時に視界が狭く邪魔になる。
- ③ つばの部分が口唇を圧迫する。
- ④ 患者が舌で押し出してしまい固定が不安定になりやすい。固定し難い。
- ⑤ 吸引が十分出来るような穴がない。

挿管チューブ

- ① 挿管するとサイズがわかりにくい。
- ② 固定時にサクションラインとパイロットバルーンが邪魔になる。(カフ上吸引ができるサクションラインは便利である)
- ③ 噛むと潰れる。
- ④ 目盛りが2cm 毎で片方しかない。

(考察)

以上の結果から看護師が考える理想の挿管チューブは、目盛りがどちらの方向からでも見えるように、透明で1cm 毎に周りに印が付いている、患者が噛んでも潰れないまたは元に形状が戻る素材であること。バイトブロックは患者の不快感やオーラルケア時の視野の確保の面から考えて、挿管チューブと一体型になっており、挿管チューブの固定位置の目盛りが見える透明素材のもの。歯牙に負担をかけるほど硬くないが噛んでも潰れない素材で、固定時にサイドチューブの邪魔にならず固定位置がずれない物。カフ上吸引ができるサイドチューブは必要だが、カフ上のサクション孔が詰まりがたいもの、となった。

(結論)

バイトブロック一体型の挿管チューブは口唇、口腔内の損傷が予防でき、視野が広がるためオーラルケアが行いやすい。